

3. 調査の方法

2013年から2016年の調査によって、石材分布範囲についてはおよそ把握できていた。しかし正確な分布図を作成できておらず、個数や位置の記録が課題であった。そこで、2017年度は、これまでの調査成果を記録化するために下記の工程に沿って調査を行った。調査船として丸山豊一の協力を得た。

(1) 調査の方法

- ①既存の調査成果の整理、調査計画の立案
- ②写真計測・水中ソナーによるオルソ画像の作成
- ③平板測量による平面図の作成、補正
- ④調査成果の取りまとめ、総括
- ⑤アウトリーチ活動

(2) 調査の体制

調査体制は下記の通り。

氏名	主な役割	所属
高田祐一	統括、文献調査	奈良文化財研究所
福家 恭	考古的調査、現地調査	長岡京市教育委員会
広瀬侑紀	考古的調査、現地調査	京都橘大学 T A
鈴木知怜	現地調査、図版作成	京都橘大学 T A
金田明大	水中ソナー計測	奈良文化財研究所
山口欧志	海中撮影 (SfM-MVS)	奈良文化財研究所
藤田 精	採石技術の検証	文化財石垣保存技術協議会 高尾石材

(3) 安全対策

海における調査には危険が伴うため、安全管理計画（簡易版）を定めた。安全管理計画では、怪我人が発生した際の搬送先となる救急病院の住所連絡先や、天候など調査実施条件などを整理した。調査地にて密漁と間違われないように、地元漁協や海上保安署には、実施日時・場所を事前に連絡した。シュノーケリング調査時においては、浮き輪等の携帯、調査者2名1組でバディを形成し常時相互安全確認、安全監視員の設置、有毒生物への備えとして毒を吸い出すポイズンリムーバーの携帯などを徹底した。地元漁師であるの丸山豊一の指示に従い、天候悪化の兆候があれば、調査を早めに中止した。